

ホタルの調査について

これまでの経過

底生生物調査の一環としてのホタルの調査結果を府民会議に報告

学識経験者やホタルの調査をされている団体の意見を聴取

今年度の実施内容

鴨川・高野川においてホタルの飛翔状況調査を実施

(調査場所) 鴨川 (庄田橋～御園橋、賀茂大橋～丸太町橋)

高野川 (松ヶ崎橋～高野橋)

(調査時期) 6月上旬～中旬の内3日間 (6/10、6/15、6/20 予定)

(調査方法) それぞれの調査場所で落差工から落差工までごとに飛翔数(地上点滅も含む)のカウントを実施

今後の予定

ホタルの飛翔数調査を継続して実施

飛翔数の経年変化を把握、検証

中州除去工事の際の工夫やホタル保全対策の検討

(参考) 学識経験者等の主な意見

- ・ホタルは鴨川では高橋上流、高野川では松ヶ崎橋上流で多く生息している。
- ・大雨の降った翌年は、ホタルの幼虫が流されるのか否かは不明であるが、飛翔数は減少する傾向がある。
- ・ホタルの飛翔数は大雨による出水や工事などの他、気象条件等いろいろな要因で多い年や少ない年がある。
- ・いろいろな要因でホタルの飛翔数が減少しても、生息環境を整えば回復する。
- ・ホタルの幼虫は、中州や寄州が長期的に固定化して泥質化した箇所よりも、水辺の浮いている石の裏などを好む。
- ・ホタルの生息環境保全のために、草刈りの時期調整が効果的であると思われる。
- ・ホタルの幼虫のためには寄州はあった方が良い。また、大雨の際に幼虫が流されないように水がゆっくり流れる工夫が欲しい。

